

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

5/25号

第15節 ギラヴァンツ北九州 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田铸造

5/25 19:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : ギラヴァンツ北九州 2013 J2 13勝10分19敗 勝ち点49:第16位

1947(昭和22)年に設立された『三菱化成黒崎サッカー部』は、九州リーグ初年度から参加し、初代王者になるなどリーグ優勝7回(うち4連覇あり)。2001年にNPO法人・北九州FCに移管され『ニューウェーブ北九州』となる。2006シーズンにはエースストライカーだった池元友樹がFC岐阜に地域リーグ決勝大会のみの短期レンタルで移籍して5試合で5得点を挙げ、FC岐阜のJFL昇格に多大な貢献を果たす。

2007年の地域リーグ決勝大会で2位となりJFL昇格(優勝はフジアーノ岡山)。2009年JFLで4位、J2加盟を果たす。J2の1年目となった2010シーズンはなかなか勝てず、リーグ戦31試合勝利なしのJリーグ・ワースト記録を更新してしまう(このシーズンはわずか1勝)。しかし、翌2011シーズンは一時期はJ1昇格圏内すぐ下の5位にまで順位を上げる(最終順位は8位)。(吉田铸造)

5/6 ホーム千葉戦では引き分けに終わり、続くアウェイでの連戦となった5/11 水戸戦、5/18 岡山戦では連敗してしまったFC岐阜。千葉には後半に2点差を追いつかれ、水戸には試合終盤に逆転負け、岡山には終始リードを許しての敗戦と、対戦相手が違いとはいえ、残念ながらここ数試合は流れをつかみ切れず、内容が悪化してしまっている。この連敗で順位は9位から15位に後退、勝ち点3差が11位と、各チームの勝ち点差が若干広がってきている状況なので、ここは何としてもチームとして踏ん張って勝利を、そして勝ち点3を積み上げて欲しいところだ。そのためにも、今節・次節と続くホーム2連戦では、選手たちは気持ちをリフレッシュさせて試合に臨んで欲しい。

さて、今節の対戦相手はギラヴァンツ北九州。昨年はシーズン前に監督・選手が大量退団したことで16位に低迷したが、柱谷幸一監督2年目体制の今年は戦術も浸透して、現在は4位。4/13には現在2位の磐田を破り、前節も群馬に逆転勝利を収めるなど、好調なチームだ。FC岐阜との通算対戦成績は4勝4敗だがホーム戦では3勝1敗と相性が良い。昨年も6/29のホーム戦で3-1と、岐阜にとって2年半振りの複数得点差勝利や#28水野泰輔のJ初ゴールなど会心の結果だったが、一方で(1勝3敗と相性の悪い)8/21アウェイ戦は、行徳監督が解任され辛島監督の初采配の試合だったが0-2で敗れている。また、2011年には10/1アウェイ、10/10天皇杯(ホーム)、10/26ホームと、1ヶ月に3回対戦し3連敗という屈辱的な成績を覚えている当時の岐阜サボ諸兄は多いことだろう。嫌な記憶を一刻も早く忘れ去るためにも、この試合は快勝しておきたい。

北九州で最も注意すべき選手は、やはり現在4得点の#11FW池元友樹だろう。2006年の地域決勝で北九州からFC岐阜にレンタル移籍し、#32を背負って5試合5得点を挙げてJFL昇格に貢献した、“初代・FC岐阜の救世主”。その一方で対戦相手としては通算4ゴール、3試合連続ゴール中と、“FC岐阜の天敵”だ。今節は何としても池元の連続ゴール記録を阻止したい。また、京都から移籍した#9FW原一樹と、“風間兄弟”の長男#28風間宏希も現在3得点と、油断できない選手が揃っている。一方の岐阜では、先述したように#28水野は見事なミドルシュートでJ初ゴールを挙げた相手だけに気分良く試合に臨めるだろう。また#31時久省吾にとっては2011年に在籍したチーム、勝利に燃えているだろう。彼らの活躍に注目したい。過酷なGW連戦の影響もあり、徐々にチーム内に故障者が増えてきているのが心配なところだが、逆に#16スティッペが故障から復帰したり、新たに起用された時久や#18ド・ドンヒョンが活躍するなど、明るい材料もある。初夏を過ぎてベテラン選手が多い今季のFC岐阜にとっては、体力的に厳しい状況での試合となっていくが、だからこそ選手全員がポジション争いをする中でチーム全体を活性化させることが必要だ。特に若手選手には、一層の活躍を期待したい。また、ここ数試合は複数失点を喫している状況なので、まずは守備の立て直しが求められる。ラモス監督の選手起用や采配で、チームの悪い流れを断ち切って欲しい。厳しい対戦相手だが、ここはホーム・長良川だ。最後まで選手を鼓舞する応援を、スタジアム全体で後押ししていこう。(ささたく)

2014J2

■順位表 ■第14節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	湘南	42p	+33	39	6	H●
2	磐田	30p	+13	25	12	
3	松本	27p	+10	23	13	A●
4	北九州	25p	+3	18	15	
5	京都	23p	+5	22	17	
6	水戸	22p	+6	17	11	A●
7	岡山	22p	+1	12	11	A●
8	大分	22p	-2	13	15	
9	長崎	21p	+5	20	15	
10	栃木	21p	+4	16	12	H●
11	千葉	20p	-3	18	21	H△
12	福岡	19p	-3	18	21	H●
13	山形	18p	+1	14	13	A●
14	熊本	18p	-2	15	17	
15	岐阜	17p	-1	19	20	---
16	愛媛	16p	0	12	12	A△
17	札幌	16p	-3	11	14	
18	東京V	13p	-6	10	16	AO
19	群馬	13p	-8	11	19	HO
20	横浜FC	12p	-8	10	18	AO
21	富山	5p	-21	7	28	HO
22	讃岐	2p	-24	7	31	HO

次回HomeGame

第16節 京都サンガ戦

6/1(日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

心の花が咲く..

何も無い店だけど...

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第12節】岐阜2-2千葉

●勝ちたかったなあ…。勝てない内容ではなかっただけに。ケンペスを入れられてから流れが変わってしまって、同点にされた後は完全に向こうのゲームだっただけに、引き分けでもやむなしと言ったところか。

そんな中でも比嘉、田中智と共に若い2人がゴールを決めたのは収穫と言えるのではないだろうか。セカンドから昇格した2人を使い続けたラモス監督も、ゲーム内容はともかくこの点に関しては嬉しかったに違いない。同じ昇格組の遠藤もどうかかしてはいただろう。

前節ゴールを決めた難波が脱臼という情報で、しばらくゲームには出られないだろうから、水野、清本を含めた若い選手たちの更なる奮起に期待したい。

(岐阜の誇り)

●今シーズン初の三連勝を懸けたホームでの一戦。勝てば(まだ気が早い話だけど)プレーオフ圏内も狙える位置。GW最終日のナイターには(僕は観客が少ないかな?と思ってたんだけど、予想以上に多い)6,524人のサポーターが集まった。いやホント、ありがたいことです。だからこそ、しっかり勝ちきりたかったよなあ…。(溜息)。前半9分に、FC岐阜セカンド出身の#36比嘉諒人が、J初スタメンでJ初ゴールを決めて先制!DF陣は、千葉の#11森本貴幸を封じ込めて仕事をさせない。後半15分には、同じくセカンド出身の#29田中智大が、セットプレーからドンピシャのヘッドで、こちらもJ初ゴールで追加点!シュート数は岐阜11本に対して千葉4本…と、ここまではよかった。ところが千葉が(GW連戦で休ませてた?)#9ケンペスを投入すると、不用意にボールを奪われてからのクロスに、#15ヘニキが競り合いながらもケンペスに豪快なヘッドで押し込まれ、一気に形成が千葉に傾いてしまう。あそこで、「まだ1点リードしてるんだから、落ち着いてプレーを続けて…」というのは、若いCBコンビには難しかったかもしれない。でも他に何人もベテラン選手がピッチに入ってるんだから、そういう“逃げ切り”に重きを置いた戦術も可能だったんじゃないだろうか。あるいは、飛ばしすぎて足が止まってしまったようなPKで同点に追いつかれてしまった後、両チームに決定機があったけど、両チームとも決めきれずにドロ。「あと少しで突き放せた」というより「あと少しで逆転されるところだった」ような勢いだったことを考えれば、勿体ないけど仕方ない結果だったような気がする。ただ、ラモス監督がよく言ってる「ピッチの中に監督がない」のは痛感させられた。90分間、試合の流れを読んでコントロールする役割を、誰かが(あるいは分担して)やらないと、やはり勝ちきるのは難しい。是非とも、その役割を果たす選手が出てきてほしい。

(ささたく)

●ん～、しみじみ90分という時間の長さを改めて思い知らされました。感想を一行でまとめるとこんな感じです。この黄金週間の連戦の中で、一番いい内容の試合だったと思うし、少なくとも前半は今季最高の出来だった。しかも、セカンドコンビが得点するとか、どんな祭りだ?……という流れだったんだけどね。「2回はチャンスを与える。」と言われた中で、結果が出なくても根気よく使われ続けた智大のゴール。しかも、足ではなくアタマで決めるなんて全くの想定外。アタマでも決められるんだと印象付けられたのはよかったんじゃないかな?そして、初スタメンというチャンスをいきなり生かした比嘉。それにしても、彼の突進力にはびっくらこいたね!昨年の東京国体で岐阜県優勝の原動力となった2人の活躍。最終的に勝利が得られたのなら、それは2人にとって生涯の忘れえぬ瞬間になっただろうし、見ているボくらにとっても「セカンド出身者による初ゴールと勝利」として半永久的に語り継がれる試合になったはず。とても、とても残念でなりません。

でも、やっぱり90分なんだよね、と。試合終了の笛が鳴らされて初めて結果が出る。いくら前半がよくても、それだけでは勝ち点をもらうことはできない。正直、前半というか、2点目を取るまでは今季最高の出来だった。ただ、前半良すぎると終盤にペース、勢いが落ちるというのも、これまたよくある話。「失った勝ち点2」。あえて、そう表現してみるけど、実に高い授業料だった。それでも、これをきっかけにゲームメイクも考えられるようになってほしい。

繰り返しになるけど、今回の千葉戦では初スタメン・コンビの比嘉と智大が出色に映った。実際、初得点もゲットしたんだし、前半に関しては非の打ちどころがなかったとしか言い様がない。オマケに長良川での得点だからインパクトは強烈だった。この2人以外に挙げるとすれば司。クロスもロングスローもよかったんじゃないかな?彼からの決定機もあったし、今後の戦いにオプションではなく、ストロングポイントとしてスタメンが張れるように思えた。現地の長良川でも、帰宅してからの録画でも、けっこう彼のプレーにワクワクした自分がいることを素直に告白しておきたい。ただ、彼に比べてナザリトのキレが鈍っているように見えた。録画を見直したら、スタジアムで受けた印象よりは動けてるようだったが、開幕直後に比べると、やはりパフォーマンスが落ち気味という印象は払拭できないね。日本というか、岐阜特有の梅雨のジメジメした空気や真夏のとんでもない暑さを体験する前にしっかり休ませてあげたい気もする。ここ数試合で相手GKの神セーブとかもあって、なかなか得点に恵まれてないところもあるし、リフレッシュが必要なかもしれない。ケガ人も何人が抱えている現状でこれ以上の離脱者はカンベンしてほしいし、それはボくら以上に指揮官が願っていることだろう。

それでも、黄金週間に勝ち点7なら及第点だと思ってる。前節までの二戦の相手は順位通りの内容と結果だったけど、現時点では下位に位置しているとはいえ、さすがに千葉はカンタンな相手じゃなかったね。ゴールこそ奪われなかったけど、森本のしつこい突進は対応が面倒だったし、ケンペスのようなストライカーをターンオーバーとはいえ温存できるのはうらやましい。ただ、失点がいずれもウチのミスからだったのが悔やまれる。

今月半以降は、順位が上位の相手との試合が続く。ここで上位と離されるか、食らいついていくことが出来るのか。前半の試金石になるかもしれない。選手には疲労が蓄積されているだろうし、今後は見据えたターンオーバー、選手の入替えも必要になってくるだろう。ナザリトもそうだけど、高地も休ませた方がいいかもしれない。そのあたりも、監督の手腕というか考え方が反映されるんだろうし、楽しみの一つでもある。

あ、そういえば昼間に開催された国立での甲府 vs 浦和がスコアレスドローで終了。この結果、改修前の国立霞ヶ丘競技場でのラストスコアラーは難波で確定!そして、改修前の最後の勝利者はウチってことになりました。歴史に名を残しましたね!

(ぐん、)

【第13節】水戸3-2 岐阜

●快晴。やや風あり。絶好のコンディション。そして、先制点。先制すれば負けなしの今季のハズだったが。う～ん、どうしてこうなった？PKについてはまったく見えなかったの何とも言えない。ヘニキが黄紙を受けてたからハンドだったのかな？、という感じ。それでも、こちらもすぐさま勝ち越し点。半ば幸運な、と言った方がいいような得点だったけれども、同点ゴールで勢いのつきかけた水戸を選手だけでなくスタジアム全体を意気消沈させることが出来るインパクトのデカイ追加点だったと、今でも思ってるんだけどなあ。後半開始前の水戸のコールリーダーの煽りといい、スタジアムを包む雰囲気といい、アチラは負けムード一色だったように見受けられたんで返す返すも残念でならない。

敗戦の要因を端的に言うと「ピッチ上の指揮官不在」かな。なぜ、リードしている状況であんなに縦に急ぐのか？それから、トラップが浮いたからって、慌ててボレーでシュートを打たなくてもいいんだよ？野垣内、キミのことだ！シュートで終わるのは鉄則だけど、今度はいったんボールをコントロールして周りを確認してからフリーの味方へパスを送る。そういう、もう一つ上のレベルを意識してほしい。もちろん、あのボレーシュートが決まったら、スカパー！の月間ベストゴールに選ばれた広島佐藤寿人ばりの絵になるゴールになっていたことは請け合い。当然、月間ベストゴールにノミネートされたとは思わけどね。あと、粗を探すとすれば、2失点目の司のプレーはいかにも軽かったな。向こう側のゴールの出来事だからはっきり言って見えなかったけど、得点シーンなもんだからご丁寧にリプレイしてくれたからね（苦笑）。

そうそう、「見えなかった」と言えば、後半開始直後は太陽光が向こう側ゴール裏の看板に反射して、こちら側からはまったく見えない状態が数分続いた。とんでもないアウェイの洗礼。でも、アレは水戸のGK・本間も見えなかったんじゃないかな？キックオフの時間と季節の影響だからどうにもならないとは思わけどね。天の悪戯と思うしかないか（苦笑）。

まあ、結果的には「ショッパイ試合だった。」と言われても仕方がない。だから、試合が終わって挨拶に来た選手達に何も言えなかった。こういう試合の後に声を掛けるとして、いったいなんて言えばいいのかな？恥ずかしながら、自分のポキヤブラリー不足を実感した次第。ただ、あそこで「次だ、次！」とか「次は勝とう！」とは言えなかった。ボクの中で千葉戦は勝ち点2を落とした試合。なのに、今回は3点も失ってしまった。授業料にしても高すぎだ。次節の岡山以降に難敵が続くだけに、「もったいない」ではかたづけられない結果を突きつけられて、う～ん、今でも言葉が見つからない。いったい、どんな言葉をかければよかったんだろう？

まあ、まだまだ発展途上のチームですから。これが昨季なら躊躇うことなく叫んでた。「次だ！次！次、勝とう!!」と。それはある意味、自分自身に言い聞かせてたところもあったのは否めません。そんな昨季と比べたらゼイタクな悩み、でしょうか？あと、ウチのボールになった時にボクらも煽り過ぎですかね？あのリズムでやると選手も心が逸るのかな？「じっくり回していいんだよ」的なチャントでいってもいいのかも。まあ、いずれにせよ、負けは負け。全体的にも局面的にも力不足ということでしょう。それでも、ブッチギリのトップ(とボトム)以外は団子状態。しぶとく勝ち点重ねて、集団に食らいついていきたいですね。

帰宅してから録画を見ていて思ったのは、試合後に両監督が挨拶をする場面の映像が流れることはよくあるけど、あれほど長く回していたのはあんまり見ない。しかも、ギリギリまで接近したうえ、角度を変えて撮影するとは。オマケに試合終了時だけでなく、キックオフ前にも2ショットを長回しされてるんだもんなあ～。本当に注目されてるんだな。ウチの監督……と、改めて思い知った次第。この流れを有効利用し

なきゃね。帰りの水戸駅。特急の到着を待つホームにどこかで見た顔。都並さんだった。「お疲れ様でした」と挨拶したら一瞬怪訝な表情だったけど、ボクのいでたち（キャップ、レプユニ着用）を見て笑顔でお疲れ様と返していただいた。握手とかサインとか、いつもスカパー！で楽しませていただいています、だとかのリアクションも考えないではなかったが負け試合だったんで躊躇ってしまった。そのあたりも情けないかも（苦笑）。今日の解説だったんだね。まあ、カリオカと闘将の対戦にはベストな解説というところか。やっぱり、「また、長良川に来てくださいね。」ぐらいは言っといた方がよかったかな。それと、試合の感想を直に聞いておけばよかったと、今さらながら後悔の嵐（笑）。（ぐん）

【ユース&ジュニアユース】

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は5/10にG1リーグの東濃実業戦、5/11に日本クラブユースサッカー選手権東海地区1次リーグの試合がありました。まずは5/10(土)の東濃実業戦は3対0で完封勝利！第3節終了時点で全勝はFC岐阜ユースと岐阜工業のみとなりましたが、得失点差でFC岐阜ユースが首位となっています(パチパチパチ)。

続く5/11(日)は名古屋市の港サッカー場で開催されました。対戦相手の愛知FCは名古屋市を拠点として活動しているクラブチームで、ジュニアユースからは中西哲生・矢野隼人・斎藤大輔をはじめとする数々のJリーガーを輩出しているチームです。FC岐阜ユースも毎年このクラブユース選手権で対戦しますが、まだ勝利したことがありません。この試合も残念ながら未観戦ですが、結果は2対0で完封勝利！！1次リーグを3勝0敗失点0で1位通過する事が出来ました(万歳～)クラブユースサッカー選手権ではこの後プレミアリーグ・プリンスリーグに参戦している東海地区の4チームによるPPリーグが予定されています。我らがFC岐阜ユースはその3位チームと全国大会出場をかけて対戦する予定となっています。試合は6月14日(土)に磐田市のゆめりあサッカー場にて14時半KO！残念ながらトップチームのジュビロ磐田戦とバッティングしている為に参戦者は少なそうですが、是非初の全国大会への切符を目指して頑張ってきて欲しいです。

そしてG1リーグの次戦は6/7(土)に土岐商業との対戦が12時半KOで予定されています。

一方、アカデミーの中学生世代のチームであるFC岐阜ユースU-15（FC岐阜ジュニアユース）もFC岐阜ユースと同じように日本クラブユースサッカー選手権に挑戦しています。

5/6(火)に選手権岐阜県大会の決勝が行われ、岐阜VAMOSと対戦し残念ながら0対1の惜敗で準優勝となりました。これに伴い6月からのクラブユース選手権東海予選にチャレンジ出来る事となりました。他県の強豪チームとの対戦となり困難は多いと思いますが、一つずつ着実に勝ち上がって行って欲しいです。

頑張れよ、応援しているからな！FORZA！FC岐阜ユース！！FC岐阜ジュニアユース！！

※試合会場・時間の変更の可能性があります。必ず東海クラブユースサッカー連盟や岐阜県サッカー協会の公式サイトでご確認下さい。

(シユナ)

【第14節】岡山2-1 岐阜

●岡山は全国で降水日数が最少の「晴れの国」。いつも暑いってイメージがあって、今年も暑いだろうな…とは思ってたんだけど、その想定を上回る暑さで（溜息）。こりゃ選手たちには相当キツイ試合になるな…とは思ってたんだけど（溜息）。前半は…何と言えがいいのかな、「省エネ？」「死んだぶり？」確かに試合は90分で決着するものだし、そういう作戦はアリだと思うんだけど。それにしあって、選手たちが全然動いていないというか、あるいは「フワフワして試合に入れていない」と言うべきか。動き出しの一步、あるいは最後の一步が遅れてるから、岡山の選手に良いようにやられる感じで。試合後のインタビューで（個人的には“天敵”認定してて、この試合でも2アシストを決められた）妹尾に「前半はやりやすかったです」とか言われちゃうんだから（グギギ）。それに2失点とも、自陣のゴール前で相手を完全にフリーにしちゃってるし、ボールウォッチャーになってる選手もいた。後半スタートは（ロッカールームでラモス監督の喝が入っただろうね）、選手の動きがよくなった。#24 難波の決定的なヘッド（あれ決まったら綺麗なダイビングヘッドだったと思う）も見られたんだけど、チャンスを外すとピンチがやってくるのがサッカーの常で。直後に2失点目、しかも岐阜に3シーズンいて「決められたくない相手」の押谷に、今季初ゴールを献上…（溜息）。その後も、攻めるんだけど最後で思い切りが足りず、敵陣のゴール前で「ボールをこねてる」間に相手に壁を作られ、結局シュートチャンスを逃す…そんな場面が目立ってたように思う。そんな中、岡山県出身の#24 難波は積極的にシュートを狙ってたし、意地を見せた1点は見事なダイレクトボレーだった。他の決定機が、もう1本ネットを揺らしてくれれば…（溜息）。ラスト10分には染矢の“顔見せ”までされちゃったもんだから、現地のサポは相当にストレスが溜まった（僕もそうだった）試合だったと思う。まあ、難波のボレーや#16 スティッペの復帰など、成果がない試合ではなかったけど、こんな試合はホームでやっちゃ絶対ダメな試合。この暑さが想定外だったのが調整ミスなのか、あるいは他の理由なのか。チーム全体でしっかりと原因を究明して猛省して、次はこんなことの無いようにして貰いたいものです。（ささたく）

●一言で言うと「ある意味スゴイ試合」ってことになるのかな？だって、あんな内容だったらシャットアウトされてもおかしくない。それなのに得点できたんだもの。昨季までだったら0-3くらいで終わってた試合。それを考えたらゼイタク言っちゃいけません。今季最多得点差（2点差）タイでの完封負けを覚悟してました。そりゃあね、後半アタマと残り15分の計20分程度しかファイトしてないのに、勝てる道理はありません。確かに水戸から岡山というアウェイ連戦はキツイでしょう。ただでさえ過密日程なワケですから。岡山も条件は同じとはいえアチはホームですからね。多少のハンデにはなったかもしれませんが。それに加えて、この天候。スタンドで立って応援してるだけのボクがバてるんですから、プレーしてる選手にとって厳しいコンディションだったのもわかります。でもね。アソコまで岡山の選手に好き放題やらねなきゃならないんですかね？特に前半はことごとくセカンドボールを支配され、ウチは苦し紛れのクリアが精一杯。ハイボールを競っても、岡山は味方につなげるよう落とし所も頭に入れる余裕があったように見えました。逆に言えば、よく一点で済みましたよ。もちろん、やられっぱなしではなくスティッペのポストを叩く惜しいシュートもありましたけど。その直前には岡山にもポスト直撃があったんでおあいこです。岡山はずいぶん組織的なプレーが出来ているように思いました。パス&ゴールを忠実にやり、サイドチェンジを含めた横への展開。それによっ

て、岐阜の守備網が薄くなったスペースへの走り込みや縦パス。5年も同じ監督で継続してきた強みでしょうか？それ以外に気になったことと言えば、相手ゴール前でいくらかねくり回しても、そんなにコースは開かないんじゃないかな？ということです。ボクがいたのはバクスタなんで、横からしか見えないから性格には判断できないんですけども、回してたらその間にディフェンスが厚くなるんじゃないかしら？もちろん、その厚くなったディフェンスを剥がして交わして決めるというのもファンタスティックだけどね。総括すると、黄金週間からこっち、一番ヒドい試合だったように思います。

これで、リーグ戦無敗だったカンスタで初の敗戦となりましたが。まあ、それはどうでもいいです。いや～、前節・水戸戦の前半をこちらがやり返されたような感じですね。ただ、それでも、得点できるんですからね。ホント、完封負けと得点との間には月とスッポンほどの差があるんだと思知らされました。

選手達は心身ともに疲労が蓄積しているんだろうと思います。開幕以来、ずっとゴールを守り続けてくれた能活もコンディション不良とかで欠場となりました。それでも、来月には札幌・熊本なんてアウェイ連戦があるんです……と書いてたら、熊本戦の翌週には天皇杯の2回戦が組まれました。しかも、会場は長崎・諫早です。えっと、ウチは東海、中部日本のクラブです。3週間もホーム開催がなく、そのうえ北海道と九州の往来なんて、どんな罰ゲームですか？キビシイ戦いはこの後も続いていくんですね……。そして、長崎に勝ったら次の3回戦は8月20日の水曜日。アウェイでの群馬戦の2日後。それも相手は新潟になる公算大。さらに、この試合もアウェイになりそう。さらにさらに、次のリーグ戦はアウェイ・福岡。こうやって、書いてるだけで息が切れそうになってきました。率直に申し上げて、天皇杯を勝ち上がるのは荊の道と思えてなりません。

とりあえず、スティッペには復帰オメデトウ！次は今季初ゴールを期待してるよ！！と伝えたいです。あ、そういえば、何で3枚目の交代が関田→秀人だったんでしょうか？ケガしてたっけ？ユーキの出番だと思ったのにな。（ぐん）

【セカンド】東海リーグ開幕

●FC岐阜セカンド（以下『セカンド』）が所属する東海社会人リーグが開幕しました。昨季は2位だったセカンドは開幕戦で昨季リーグ最下位（マルヤス工業とアスルクラロ沼津のJFL参加で降格を免れた）矢崎バレンテと対戦し、まさかの1-4の敗戦スタートとなりました。

昨季のセカンドはリーグ戦で28得点だったのですが、「そのうち26点分くらいはいなくなった」という話もあり、やはり田中智大、遠藤純輝、比嘉諒人の3人のトップチーム昇格と主力数名の移籍は戦力に大きく影響しているようです。リーグ戦は全14試合、10月まで続きます。まだまだチームは未完成のようですが、立て直してほしいですね。

次のセカンドの試合は、1週空いて5/25（日）の11時から、笠松の岐阜フットボールセンターでChukyoUniv.FC戦の予定です。

※試合日程・会場は変更の可能性もありますのでご注意ください。

（吉田鑄造）